

**郷土資料整理ボランティア**

# カガヤキ

No.43(2019.4.15 刊行)、広報委員会編集  
県立図書館発行  
禁複写転載©広報委員会

**特集 H30年度年次報告**

(あいうえお順)

**外国語資料整理ボランティア**

河村日佐男

(1)作業内容

外国語の出版物について、図書カード作成の基礎データとなる書誌事項の和訳及び簡略化した内容の和文を作成した。

(2)人工数

64人・日。

(3)成果

英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、その他の言語の資料は、新着のものその他、収蔵分が多く、総数 29 冊の和文を作成した。

(4)課題

英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、フランス語、その他の言語に対し、新たなメンバーを入れていく必要がある。一般のひとに加えて、高校生や大学生も歓迎。

金原ヒロ

(1)作業内容

図書館所蔵の古文書の解読及び公開  
図書館収納用の冊子作成、さらに、県立図書館 HP への掲載を実施した。

2 ヶ月に一度集まり、それぞれの解読の進捗状況や疑問点などを話し合い、データ化・冊子化した。

(2)人工数

1862 人・日。

(3)成果

以下の作品の解読、校正、冊子化作業が進行中である。

冊子化

「海防之集説」、「浅田兄弟敵討一件」、「浅田兄弟敵討」、「浅田鉄蔵復讐記」。

冊子化作業中

「駅路鞭影記」、「南遊日録」、「異船諸説書集」、「安南漂流記」、「魯西亜渡来記」、「魯西亜漂流記」、「漂民御覧之記」。

データ化作業中

「志の飛音」。

解読中

「地理書」。

(4)課題

解読し、冊子化したものをデータ化して、県立図書館 HP の「郷土資料デジタルライブラリー」に掲載しているが、掲載内容が深まるようにしてゆきたい。

## 広報ボランティア

桜井 淳

### (1)今年度目標

今年度は、少なくとも、通信紙を2回発行し、さらに、品質向上と読者率を高めるための工夫をしたい。

### (2)人工数

100人・日。

### (3)作業内容

通信紙 No.39-43 の原稿依頼と編集作業を実施した。品質向上のための調査と研究も実施した。

### (4)成果

No.39-42 は県立図書館 HP に掲載された。No.43 は、編集作業が完了し、次年度第一週に HP 掲載手続きを実施する予定である。

今年度は目標以上の成果を上げることができた。

HP の「お知らせ」に通信紙の発行の記載が入り、読者率向上につながった。

読者率は約 50%に到達したと推定される。

### (5)次年度課題

①通信紙表題の変更を具体化したい。

②通信紙発行組織の変更を具体化したい。

④広報ボランティアの増員を図りたい。

#### 【特記事項】

上條哲氏は、2018年12月18日、享年89歳で、逝去した。No.42の内容は、前例のない「特別企画 上條哲氏追悼」である。

人間の能力や価値を何によって図るかは、単純なことではないものの、ひとつの社会的業績に着目し、相対的に、日本で、茨城県で、水戸市で、県立図書館ボランティアで、どのような位置づけなのかと言う評価は、できないことではない。

上條氏は、No.30に、「ボランティア体験68年」と題する「ボランティア論」（「ボランティアにかかわる事項のまとめ」の略）を記した。

内容は、密度が濃く、大変、優れており、「ボランティア論」として、日本でも上位(A,B,CクラスのA)に位置づけられるほどの出来栄であったため、単行本にすることを勧めたものの、実現できなかったことは、まことに残念である。

上條氏の「ボランティア論」の価値は、長く問題意識を持ち続けたこと、各種ボランティアに入り込む動機や手順が具体的に記されており、これからボランティアを始めようと考えている人達だけでなく、10-20年と続けてきた人達に対しても、教科書となるほど優れた内容である。

上條氏は、89歳で逝去するまで、現役のボランティアであった。社会的には、自身が介護されるような年齢であったにもかかわらず、1ヵ月の26日間は、福祉施設や介護施設のボランティアであった。

ボランティアは、人間が好きでなければ、長く続けられない。上條氏は、小さい頃から、キリスト教に基づく愛と救済の精神が芽生えており、それが70歳台に、日曜礼拝の際、牧師に代わり、説教につながっている。誰にでもできることではない。

上條氏は、県立図書館ボランティアの誇りであり、目標である。

### 三の丸書庫ボランティア

黒澤英宣

#### (1)作業内容

団体など貸出用図書返却分の各分類別保管作業・整理作業を実施した。

団体など貸出用図書の点検・「県立」表示ラベルの貼りつけと透明シールの貼りつけを実施した。

図書の修理作業とブッカー作業を実施した。

#### (2)人工数

6936人・日。

#### (3)成果

昨年度よりも、1回の作業参加人数が増えた。参加ボランティアの意識は、高く、活動は、きわめて積極的で、効率的であり、常に協力し合って成果を出してきている。

#### (4)課題

23万冊ある書架の整理を少しずつ行っていき、きれいな書庫にしたい。

### 資料配架ボランティア

吉田善克

#### (1)作業内容

返却資料の配架と書架整理を実施した(延べ人数303名、延べ日数213日)。

#### (2)人工数

11628人・日。

#### (3)成果

毎週、定期的に活動しているボランティアは、5-6名であり、大学生など若い人の活動が見られるようになっている。

### 児童サービスボランティア

野本展子

#### (1)作業内容

「こどもとしょじつ」における「おはなしかい」を実施した(延べ活動人数1112名、延べ参加人数3990名)。

研修会「ゆうくんとマットさんのお話会」と「パペット研修会」を実施した。

その他、「こども読書フェスティバル」への参加、「図書館に泊まろう！読み聞かせ協力」、「いばらき読書フェスティバル」参加・協力した。

班長会議3回と総会1回開催した。

#### (2)人工数

19089人・日。

#### (3)成果

自主研修を行うことで、自分達の読み聞かせ技術の向上に努めることができた。研修したことを実践することもできた。

#### (4)課題

折り紙教室など、新たな取組みについても、相談中である。

### 対面朗読サービスボランティア

人見佳子

#### (1)作業内容

対面朗読の水曜班は、9回、日曜班は、22回、実施した（計31回、延べ活動人数60名）。

訪問朗読は、ナザレ園訪問朗読を実施した（11回、延べ活動人数69名）。

定例会・研修会については、定例会7回、定例会及び研修会5回実施した（計13回、延べ活動人数119名）。

県立図書館の行事に参加した(11月3日「読書フェスティバル古本フリーマーケット」の準備、11月4日「読書フェスティバル」（古本フリーマーケット・館内探検ツアー）への協力、12月16日「ボランティア研修会」への参加)。

#### (2)人工数

2198人・日。

#### (3)成果

(1)の作業内容に成果も記載しておいた。

#### (4)課題

対面朗読ボランティアの具体的な活動を知らないひとも多いので、広く活動内容を知ってもらうための活動をしてゆきたい。また、ふたりの利用者の定着だけでなく、新規利用者も出てきたため、活動内容を広く知らせてゆきたい。

### 図書修理ボランティア

小林米子

#### (1)作業内容

毎週、金曜日に活動し、損傷した図書の修理を行った。

「こども読書フェスティバル」と「いばらき読書フェスティバル」への協力

として、「本のお医者さん」のイベントを行った。

各種講習会の講師をしているが、今年度は、学校図書館支援事業研修会、県図書館協会研修会の講師を実施した。また、他市町村図書館での図書修理研修会でも講師として活動している。

#### (2)人工数

1935人・日。

#### (3)成果

県立図書館所蔵資料の修理だけでなく、他市町村図書館所蔵資料や個人資料の修理も行うことができた。

#### (4)課題

ボランティアの募集に関して、細かい作業内容なので、手先の器用なひとで、長時間参加できるひとを募集する方針である。

### 録音図書製作ボランティア

近藤淑子

#### (1)作業内容

録音図書製作と再製作を実施した。

定例勉強会と県南勉強会を実施した。

「名作を楽しむ会」の音訳協力を2回、実施した。 図

「読書フェスティバル」の館内探検ツアーに協力した。

音訳研修会を開催した。

#### (2)人工数

1406人・日。

#### (3)成果

(1)の作業内容に成果も記載しておいた。

#### (4)課題

録音図書製作ボランティアの具体的な活動を知らないひとも多いため、活動内容を広く知ってもらうために、「名作を楽しむ会」や朗読会を開催しているが、より一層の広報活動をしてゆきたい。DAISY 録音図書について、広報してゆきたい。

録音図書製作ボランティアとして長期間継続できる DAISY 録音図書製作経験者を募集したい。

図書修理 1935 人・日。

録音図書 1406人・日。

### 総括 編集者人工数分析

桜井 淳  
広報グループ

人工数は、「作業の大変さ」を表すひとつの目安であり、絶対的意味は、ない。

ボランティア室の出席チェック表の記録を基にしているため、県立図書館に来なくても作業のできるグループ(外国語資料、郷土資料、広報)の値は、小さく、そうでないグループ(上記以外)の値は、大きく出て傾向にある。

特に、三の丸、配架、児童の作業が大変であることが読み取れる。

外国語資料 64 人・日。

郷土資料 1862人・日

広報 100人・日。

三の丸 6936人・日。

資料配架 11628人・日。

児童サービス 19089 人・日。

対面朗読 2198 人・日。

## 編集後記

県立図書館ボランティアには、どういうわけか、連絡先を記した名簿がありません。

いかなる組織でも、たとえ、山行会でも、趣味の会でも、みな、連絡先を記した名簿があります。

広報委員会は、ボランティアの名簿がないため、原稿依頼において、直接、依頼できず、必ず、県立図書館ボランティア事務局広報委員会担当者を経て、事を進めており、いささか、苛立ちを覚えております。

何とかならないものか？

過去の「年次報告」(No.39)の原稿は、投稿規定(No.31)で執筆書式を定めてあったにもかかわらず、書式無視、さらに、文章になっておらず、メモ程度であり、頭を痛めておりました。

今回は、最初からの問題を克服するため、細かい指定を行い、レベルアップを試みました。

遡れば、通信紙 No.31 において、「投稿規定」と「編集裁量範囲」と「原稿執筆から掲載までの一般論」を記しましたが、本号に見るとおり、意識革命は、完全な形に、進みませんでした。今後を期待します。

編集者は、厳しい要求をしているわけではありません。文章を書くことはそれほど負担なことなのでしょうか？通信紙1ページ分くらい、コーヒーを飲みながら、1時間くらい、楽しみながら、エッセーをまとめる気軽さでまとめれば良いのです。

世の中の作家志願者は、できるだけ多く

の文学作品を読み、さらに、目標とする作家の文章を原稿用紙に書き写し、世の中に通用する文章表現の微妙な技まで自身のものにしていきます。

私が、意識的に文章表現を学ぶようになったのは、20歳台半ばの頃であり、世の中で特別な分野の仕事をするため、目指す哲学者の著書を読み漁り、文章の癖(他にない魅力)や論理展開(読みやすさと分かりやすさ)を身につけました。

そして、29歳の時、複数の訳者による翻訳出版の話があり、3年かけて出版できました。その後、30歳台には、年間数編の月刊誌特集論文の執筆依頼がありましたが、数が少なく、25歳から41歳まで、毎日が修行の日々でした。

ところが、42歳の時、あまり気が進まなかったものの、月刊誌編集者の強い押しに根負けし、執筆したところ、新聞の広告で大きな扱いを受け(いわゆる右一)、さらに、「朝日新聞」の「月間時評」欄で採り上げられるなど、その時から流行作家並みの年間100編の月刊誌論文やエッセーが書けるようになりました。

文章修業は、40歳台まで続き、50歳台になって、初めて、四半世紀にわたる厳しい修行から解放されました。

作家が新聞の文化欄に執筆するエッセーは、特別な光を放っています。そのような文章が書けるひとは、世の中に、そう多くいません。

県立図書館ボランティアに期待しているのは、プロ並みの文章表現ではなく、もっと、ごく普通の表現の文章です。ですから、気楽に対応してください。

桜井 淳

【補足】桜井淳編集担当通信紙

CY	No	HP 掲載	備考
H27	25	○	再発行優先版 H27 年度年次報告
H27	26	○	再発行優先版 H27 年度全体会 合報告
H27	27	○	モデル版 ボランティア論
H27	28	×	テスト版
H27	29	×	テスト版
H28	30	○	モデル版 ボランティア論
H28	31	○	モデル版 投稿規定作成 編集裁量範囲 掲載までの経緯
H28	32	作成中	ボランティア詳細データ収集中 特性分析 (多変数解析含む)
H28	33	○	モデル版 通信紙位置づけ
H28	34	手続中	モデル版 図書館論 ボランティア論
H29	35	×	テスト版
H29	36	手続中	モデル版 ボランティア論
H29	37	手続中	モデル版 ボランティア論
H29	38	○	モデル版 火災避難訓練実 施報告

H30	39	○	モデル版 H29 年度年次報告
H30	40	○	モデル版 県立図書館現状 ボランティア論 未来図書館論
H30	41	○	モデル版 H30 年度ボラン ティア研修会実 施報告
H30	42	○	モデル版 上條哲追悼企画
H31	43	○	H30 年度年次報告
?	44	編集中	ボランティア論

注 1) 「再発行優先版」とは内容より再発行優先。

注 2) 「モデル版」とは標準化できる良い内容。

注 3) 「テスト版」とは意見を聞くための試験版。